

事務局：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

電話 / FAX : 03-5740-9505 e-mail : 最後のページ参照

日本教育工学会ホームページ <http://www.jset.gr.jp/>

ISSN 1340-9913

日本教育工学会 第24回全国大会のお知らせ (第三報)

日本教育工学会第24回全国大会を、下記のように上越教育大学において開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。また、研究発表にも奮ってご応募ください。

1. 開催期日・会場

期日：2008年10月11日（土）～13日（月）（3日間）

会場：上越教育大学 〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

JR北陸本線・信越本線「直江津駅」よりバス20分、タクシーで約15分。JR信越本線「高田駅」よりバス15分、タクシーで約10分。直江津駅、高田駅より直行バスを運行する予定（片道200円）。

<http://www.juen.ac.jp/contents/access/guide/>

2. 大会日程

第1日 10月11日（土）	第2日 10月12日（日）	第3日 10月13日（月）
9:30～10:00 受付	9:00～ 9:30 受付	9:00～ 9:30 受付
10:00～12:00 一般研究発表1	9:30～12:30 一般研究発表3	9:30～12:30 一般研究発表4
12:00～13:30 昼食 各種委員会	12:30～14:00 昼食	12:30～13:30 昼食
13:30～15:30 シンポジウム1	理事・評議員会	大会企画委員会
15:40～18:20 一般研究発表2	14:00～14:30 全体会	13:30～16:00 課題研究発表
	14:30～17:15 シンポジウム2	
	17:15～18:00 移動	
	18:00～20:00 懇親会	

*プログラム編成によっては、時間帯が若干変わることもあります。また、企業展示が11日（全日）、12日（16時まで）に催されます。ぜひ見学にお立ち寄り下さい。なお、2日目の全体会では、研究奨励賞及び論文賞の表彰等があります。

本号目次

第24回全国大会のお知らせ (第三報) ----- 1	論文誌特集号のご案内 (第一報) ----- 14
2008年度夏の合宿研究会のご案内 (最終報) ----- 10	理事会議事録 ----- 15
研究会開催案内/発表募集/報告 ----- 11	学会日誌等 ----- 16

3. 各セッションについて

(1) シンポジウム

以下のようなテーマが予定されています。

シンポジウム1

シンポジウム1A ソーシャルネットワーキングの広がり と 教育利用

コーディネータ（五十音順，以下同様）：金西計英（徳島大学），室田真男（東京工業大学），森田裕介（早稲田大学）

司会：金西計英（徳島大学），森田裕介（早稲田大学）

話題提供者：安武公一（広島大学大学院），風間一洋（日本電信電話株式会社 未来ねっと研究所），庄司昌彦（国際大学グローバル・コミュニケーション・センター），虎岩雅明（NPO法人TRYWARP）

指定討論者：加藤 浩（メディア教育開発センター）

最近，FacebookやMySpace等のSNS(Social Networking Service)に注目が集まっている．人と人とのつながりに基づく各種の活動や，活動に基づく産物が，インターネット上で多くの人を引きつけている．そこでは，コミュニケーションをベースに，集合知の実現が謳われている．ソーシャルネットワーキングの活動やサービスが，教育現場にも大きな影響を与えるであろうことが，予測される．しかし，ソーシャルネットワーキングは，注目を浴びる反面，必ずしも人々の間で，共通認識を得ているとは言えない．ブログや掲示板を提供するシステムだけがSNSではない．広く考えれば，連動した一連の現実社会の活動や，そこで生み出された生成物もソーシャルネットワーキングの一部を構成するものである．

そこで，本シンポジウムでは，ソーシャルネットワーキングに関して，これまでの流れやこれからの方向性，実践のあり方等，様々な観点から話題を提供していただき，教育への利用の可能性について議論することを目指す．

シンポジウム1B 実践研究をどのようにデザインし，論文にまとめるか

コーディネータ兼司会：木原俊行（大阪教育大学），清水康敬（メディア教育開発センター）

提案者：植野真臣（電気通信大学），稲垣忠（東北学院大学）

コメンテーター：山内祐平（東京大学）

本シンポジウムは，昨年の大会に引き続き，大会企画委員会と編集委員会が連携して，企画・運営するものである．実践研究は日本教育工学会の重要な研究分野の1つであるが，そのデザインや知見の論文化には，教育実践を対象とする研究に固有の問題点がつきまとう．こうした見地から，前回大会では，実践研究のデザインや知見の論文化に関するシンポジウムを企画した．会場が満席となるほど多くの参加者を得て，このテーマが会員の関心に合致していることが再確認されたため，再度企画するものである．

本シンポジウムでは，前回大会同様，いくつかの実践研究事例を対象にして，本学会における実践研究のデザイン等について，具体的に，また詳細に検討したい．特に，昨年のシンポジウムで話題となった，実践研究において「理論」が果たすべき役割，実践者と研究者の共同のあり方，論文に求められる論理展開や内容，スタイル等について，討論を繰り広げる予定である．

シンポジウム2 教師教育の再考－専門職としての教師の資質能力の規準とその育成方法－

コーディネータ：南部昌敏（上越教育大学），東原義訓（信州大学）

司会：南部昌敏（上越教育大学）

基調講演者：デービット・イミグ（メリーランド大学）

提案者：東原義訓（信州大学），福島裕敏（弘前大学），藤田武志（上越教育大学），吉崎静夫（日本女子大学）

指定討論者：小柳和喜雄（奈良教育大学）

教員免許状更新制，教職大学院などの新たな制度の中での教員の養成・研修，及び諸外国における取り組みの理念及び状況を関連させながら，我が国における教師教育の過去・現在・未来について論じ，教員養成から教員研修までの教師の生涯にわたっての成長を見通した専門職として身につけるべき教師の資質能力の規準とその育成方法について展望する．

(2) 課題研究

以下のような6件のテーマの設定が予定されています。なお、課題研究は、発表希望者に事前にプロポーザルを提出していただき、大会企画委員会が発表の可否を決定いたします。各課題について十分に討論することを目的としていますので、発表者は、発表だけで退席することなく、最後の総合討論に参加しなければなりません。この点、ご注意ください。

- K-1 つながりメディアの教育利用ーモバイル、ユビキタス、ロボットアバタ、SNS等ー
コーディネータ：緒方広明（徳島大学）、中原 淳（東京大学）、高井尚一郎（内田洋行）

近年、場所や空間を超えて、人々を結ぶ様々な「つながりメディア」の教育利用が進んでいる。例えば、モバイル端末を用いて、親子や友達をつないで学習を支援するシステムやコミュニケーションロボットを用いて教室同士をつなぐといった、新しい「つながりメディア」を用いた教育支援の試みが数多くされてきている。

また、センサネットワークやRFIDタグなどを用いて学習者同士をつなぐ、ユビキタス学習環境についても、実用化の段階に進んできている。さらに、最近では、Web2.0の技術やSNSなどのSocial Computing技術をe-Learningに取り入れた「e-Learning2.0」という新しい概念も登場してきている。

本セッションでは、このような「つながりメディア」の教育利用に関係する研究発表を幅広く募集する。また、教育利用を前提とした新しいメディア技術の提案・開発に関する研究発表も歓迎する。

- K-2 教育工学分野における新しい技術を活用したシステム開発の展開
コーディネータ：金西計英（徳島大学）、林 敏浩（香川大学）、
室田真男（東京工業大学）

学習状態の適切な診断は、教育システム開発の大きな目標の一つである。最近、大量情報からの知識発見や脳科学等の分野で多くの成果が蓄積されている。そうした成果の教育工学分野への応用、学習者の把握への応用に注目が集まっている。例えば、e-Learningシステムがコンテンツ管理を主とするLMSから、ユーザの様々な情報を収集するe-Portfolioへと変化するにつれ、大量のユーザ情報を積極的に活用しようとする流れが生まれている。

本課題研究では、学習履歴のマイニング、メタオブジェクトを用いた学習履歴の共有、生体情報や感性情報を用いた学習履歴の分析等、学習状態を適切に診断するための新しい技術を活用した教育システム開発の発表を募集する。研究者の間で知見を共有し、教育工学的なシステム開発研究のあり方やその評価手法について、議論が深まることを期待する。新しい技術を用いた教育システムを開発されている研究者の積極的な発表を期待する。

- K-3 ICTを活用した教育システムをどのように評価するのか
コーディネータ：久保田賢一（関西大学）、向後千春（早稲田大学）、
栗山 健（学習研究社）、平嶋 宗（広島大学）

ICTの教育・学習への活用が急速に進んできた。それに伴い教育工学の文脈において、ICTを活用した効果的な教育・学習のあり方に関する研究が盛んに行われるようになった。これらの研究は、教育・学習という現象を対象としているが、ソフトやハードを開発した技術者とその技術を教室で活用する教師の立場では、「ICTを活用した教育システム」の評価には大きな違いがあることも明らかになった。教育工学の領域では、企業、技術者、教師、指導主事などさまざまな領域の人たちが、教育・学習に何らかの形で関わり、研究が行われている。しかし、領域の違う人たちの間のコミュニケーションが十分にとれているとはいえ、各領域での評価が他の領域のなかで十分に生かされていないのが現状である。技術の側と教育を実践する側にとって有益な評価とはどのようなものか。あるいはどのようなコミュニケーションを両者の間で持つことが必要なのか。教育実践、心理学、技術開発、ビジネスなどの観点から幅広い視点で議論し、「望ましい評価のあり方」についての理解を深めたい。

■K-4 初等中等教育におけるICT活用のデザイン・実践・評価

コーディネータ：高橋 純（富山大学），森田裕介（早稲田大学）

「教育の情報化」に関する政策が進められ、ICTを活用したわかる授業の実現や学力向上が求められてきている。そこで、本課題研究では、テーマを本年の論文誌特集号とも連携させつつ、初等中等教育での学習指導におけるICT活用のデザインと実践、その評価等についての議論を行いたい。具体的には、わかる授業や学力向上を目指したICT活用の授業モデル、教員のICT活用指導力の向上を図る教員養成カリキュラムや現職教育プログラムの開発研究等を扱う。また、特に今日、初等中等教育における児童・生徒の学力向上を期したICT活用が政策的に推進されており、本学会としてこの分野の知見を整理することが求められていることから、初等中等教育における学力向上とICT活用に関わる研究についても発表されることを期待したい。

■K-5 情報教育研究・実践の方向性－教育課程の改訂を受けて－

コーディネータ：小泉カキ（尚美学園大学），中橋 雄（武蔵大学），
野澤敏夫（東京書籍）

次期学習指導要領ではこれまで以上に情報教育の充実が唱えられており、小学校段階では問題解決の学習や探求活動を通して情報活用能力を身に付け、中学校段階ではこれを基礎に各教科等でICTを主体的に活用し、高校段階で進路によらず必要となる情報活用能力を身に付けるとされている。中でも、発達段階に応じた情報モラル教育は喫緊の課題と位置づけられ、社会の情報化に対応できる能力の育成がより具体的に示されている。本学会では、カリキュラム開発、学習評価、実践研究、学習環境デザイン、教材開発、教師教育など、様々なアプローチで情報教育の研究成果が報告されてきたが、これらをいま一度批判的に見直すことにより、新しい教育課程における情報教育のあり方について議論したい。本課題研究では調査データや実践結果の考察に基づき、これからの情報教育研究および情報教育実践の方向性について提案してもらいたい。

■K-6 新しい時代に対応する学力、それを育む授業・カリキュラム

コーディネータ：新地辰朗（宮崎大学），田口真奈（京都大学），
野中陽一（横浜国立大学）

様々な教育課題の解決に向けて、新しい学習指導要領が示され、言語活動の重視や新しい時代に対応する学力、例えばPISA型読解力の育成が求められている。基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着及び知識・技能を活用する力の育成を目指す上で、引き続き、ICT活用等を含めた教育方法の工夫や改善が求められる。社会の要請や児童・生徒の実態に応じた教育を実現するために、学校や教師には、効果的な授業やカリキュラムの在り方を構想し、さらに結果を見極める力量が求められている。

本課題研究では、学力、授業、カリキュラムなどの観点から、様々な方法によって教育活動を質的に向上させようとする、教師、学校そして教育委員会による意図的・計画的な取り組みに関わる実践報告、開発されたカリキュラム、研究成果等を取り上げる。

(3) 一般研究

一般研究発表は以下のテーマのセッションで行われます。発表申し込みの状況に応じて、統合・分割など、セッションの調整を行うことがあります。

なお、今大会も、一般研究発表については、口頭発表とポスター発表のどちらかを発表者が申込時に選択できます。ポスター発表者は、発表セッションの定められた時間帯に、ポスター前で説明及び討論に従事しなければなりません。

(1) 語学教育・国際理解 (2) 情報教育Ⅰ(情報活用能力の育成等) (3) 情報教育Ⅱ(教科指導等) (4) メディア教育・メディアリテラシー (5) 教師教育 (6) 特別支援教育 (7) 生涯学習・企業内教育 (8) 看護・福祉教育 (9) 教育評価・データ解析 (10) 授業研究 (11) 授業設計・実践 (12) 高等教育における教育方法 (13) 教育ソフトウェア開発・評価 (14) 学習コンテンツ開発・評価 (15) 遠隔教育・遠隔学習 (16) 認知モデルと知的学習支援システム (17) インターネットを利用した授業実践 (18) 教育メディア (19) e-Learning (システム) (20) e-Learning (運用・評価) (21) 協調学習と協調作業 (22) ワークショップ (23) その他

(4) International Session

発表及び質疑応答が英語で行われます。本セッションは、教育工学研究の国際化に対応するものであるとともに、特に若い研究者に対しては、国際学会等での研究発表や討論を有意義なものとするための体験を提供する機会でもあります。発表は一般研究発表のいずれかのセッションと同じ時間帯で行われます。

◆発表時間について

発表時間は以下の予定です（発表件数に応じて変わる場合があります）。

[課題研究] 課題研究の趣旨説明10分 研究発表各15分 総合討論1時間程度

[一般研究] <口頭発表>発表13分 質疑応答5分

<ポスター発表>1セッション（在席責任時間は60分）

[International Session] 発表13分 質疑応答5分

4. 大会までのスケジュール

- 6月26日（木） 課題研究発表申込書・プロポーザル（2～4ページ）提出締切
- 7月10日（木） 課題研究採否決定通知
- 7月24日（木） 課題研究・一般研究・International Sessionの参加費事前送金締切（郵便振替の場合）
- 7月31日（木） 課題研究発表原稿（2又は4ページ）及び一般研究発表・International Session原稿（2ページ）の提出並びに参加費事前送金締切（クレジットカード支払いの場合）
なお、17:00が最終締切時刻となります。この時刻以降の原稿の提出は一切受け付けません。また、原稿の差し替えは、提出締切時刻までは可能ですが、Web上でご自身でお願いいたします（電子メールによる差し替えは認められません）。
- 8月28日（木） 発表者以外参加費等事前送金期限（郵便振替の場合、それ以降は送金しない）
- 9月4日（木） 発表者以外参加費等事前送金期限（クレジットカード支払いの場合、それ以降は送金しない）

5. 大会の参加申し込み及び受付等について

大会に参加を希望される方は以下の手順に従って、申し込みをお願いします。

(1) 事前送金の場合の参加費等について

事前に参加費等を送金される場合は、以下の金額を、郵便振替の場合は8月28日（木）までに、クレジットカード支払いの場合は9月4日（木）までに、送金してください。それ以降に送金された場合は、当日参加の場合との差額を会場でお支払いいただきます。

なお、発表者は、郵便振替の場合は7月24日（木）までに、クレジットカード支払いの場合は7月31日（木）17:00までに、参加費の送金を完了してください。この期限までに参加費及び2008年度会費の納入が確認できない場合は、発表は取り消しとなりますので、ご注意ください。

参加費	正・准・名誉会員	2,500円（当日は4,000円）
	学生会員	1,500円（当日は3,000円）
	非会員	3,000円（当日は4,000円）
懇親会費		5,000円（当日は6,000円）
弁当代		1,000円（1食分、当日受付は不可）
講演論文集代（CD-ROM付）		6,000円
講演論文集の送料（参加されない場合）		1,000円

8月28日（木）までの変更については、返金は致しませんが、送金なされた分を次年度の年会費に振り替えることができます。学会事務局（世田谷）office-s@jset.gr.jpまでご連絡ください。非会員の場合は入会をしていただくこととなります。この日以降は、変更を連絡いただいても、原則として返金等ができないことをご了解ください。

大会参加費と論文集代を事前に送金したけれども、学会事務局に連絡することなく、大会に参加されなかった場合には、その旨を学会事務局（世田谷）office-s@jset.gr.jpまでご連絡ください。論文集をお送りします（送料は参加費で補填いたします）。ただし、その差額は返金できません。

卒業見込み年月が過ぎた学生会員で継続の連絡がない場合は、「准会員」に会員種別が変更されています。 学生会員としての特典はありませんので、ご注意ください。

(2) 事前の送金と参加登録について（今年から変更になりました）

今年の全国大会から、会員と非会員で参加費等が異なります。JSETホームページ (<http://www.jset.gr.jp/>) の「大会参加」ページにアクセスしてください。その画面で、①正会員・准会員・名誉会員の場合、②学生会員の場合、③非会員の場合を選択できますので、それぞれの場合の説明に従って参加登録と送金手続きをお願いします。

また、送金方法として、3つの方法が準備されます。それらは、①クレジットカードによる支払い、②郵便振替、③当日会場で現金で支払いです。

なお、事前に送金をしていただける場合は、クレジットカード支払いと郵便振替のどちらかの方法をご利用下さい。

①「クレジットカードによる支払い」の場合

- ・ 上記の「大会参加」ページで、「クレジットカードによる支払い」を選択してください。
- ・ ただし、その際には学会から発行してご連絡してありますID・パスワードが必要です。パスワードをお忘れになった場合は再発行いたしますので、学会事務局（世田谷）office-s@jset.gr.jpに、電子メールでご連絡ください。
- ・ その後表示される指示に従って、手続きをお願いします。
- ・ なお、学生割引は正規の学生会員に限ります。そのため、登録されている学生会員以外は割引価格では送金できないようになっています。

②「郵便振替」の場合

- ・ 会員が郵便振替で送金される場合も、上記の「大会参加」ページで、「郵便振替」を選択してください。
- ・ その後表示される指示に従って、手続きをお願いします。その際表示される金額と送金内容を学会からニューズレターと一緒にお送りする郵便振替用紙に記入して、郵便局の窓口から送金してください。なお、必ず会員番号をお書きください。
- ・ 学会事務局では入金確認後に、会員データベースに入力します。郵便局の窓口から送金されてから1週間から10日かかりますので、送金日はそれを考慮してください。
- ・ 不足料金がある場合、電子メールアドレスがわかる方にはできるだけ事前に連絡しますが、全員にはご連絡できないことも想定されますので、十分ご注意ください。

③「当日会場で現金で支払い」の場合の事前登録

- ・ 「当日会場で現金で支払い」の場合でも、参加登録を事前にさせていただきますと、会場での受付が非常に簡便になります。
- ・ この場合、上記「大会参加」ページで「当日会場で現金で支払い」を選択してください。
- ・ その後表示される指示に従って、手続きをお願いします。
- ・ 登録内容が自動的にメールで送信されますので、それをプリントして当日会場受付にお出しください。当日、参加票に記入する必要がなくなります。

④昼食（弁当）について

- ・ 会場周辺に食堂・レストランがありませんので、弁当（1,000円）の販売をいたします。
- ・ ただし、販売は、事前に送金される場合に限ります。 上記の参加登録形態が「当日会場で現金で支払い」の場合には弁当を予約できません。
- ・ 弁当代の事前送金は、上記①あるいは②の登録の過程で申し込みできます。

(3) 大会受付票等の送付について

事前送金された方々には、大会受付票等を9月中旬までにお送りします（予定）。

- ・ クレジットカード支払い、あるいは郵便振替で事前送金された参加者には、9月中旬までに、「大会受付票」「大会参加証(名札用)」「領収書」を電子メールの添付書類でお送りします。
- ・ 大会当日は、電子メールで送られた「大会受付票」等をプリントしてお持ち下さい。
- ・ ただし、電子メールアドレスが登録されていない会員には、大会受付票等が送られませんので、当日会場でその旨お申し出ください。

(4) 当日の受付について

①事前送金済みの場合

- ・ 大会受付の「事前送金済参加者」窓口で、電子メールでお送りした「大会受付票」をお渡し下さい。
- ・ 大会プログラム、大会論文集等をお渡しします。
- ・ プリントして持参していただいた「大会参加証(名札用)」を名札ケースにお入れ下さい。
- ・ 大会受付票をお忘れになる場合に備えて、できれば受付番号をメモしておいてください。
- ・ 大会受付票を紛失された方は、「事前送金参加受付票」に必要事項を記入の上、「事前送金済参加者」窓口にて、その旨、お申し出ください。
- ・ 送金金額に不足があり、大会当日に差額をお支払いいただく場合も、「事前送金済参加者」窓口でお受けします。

②当日参加の場合

- ・ 当日参加者は、大会受付にて、「当日参加受付票」に必要事項を記入して、それを大会受付の「当日参加者」窓口にてお渡し下さい（名刺をお渡し下さる場合は、連絡先住所等の記入を省略することができます）。
- ・ ただし、学会ホームページから参加登録を行った会員は、自動送信されたメールをプリントしてお持ちください。会場で「当日参加受付票」に記入していただく必要がなくなります。
- ・ お支払いいただいた金額に応じて、大会プログラム、大会論文集等をお渡しします。
- ・ 名札ケースに名刺を入れるか、お名前をカードに書いて入れてください。
- ・ 懇親会費を支払われた場合は、名札にマークをはらせていただきます。

(5) その他

- ・ 学生割引は本学会の正規の学生会員に限ります。そのため、学生会員以外が割引価格の金額を送金された場合は、差額を申し受けます。
- ・ 名札ケースは、最終日のお帰りの際に、ご返却下さい。
- ・ なお、今年度、大会の開催にあたって、新潟県から補助をうけることになりました。そのため、大会終了後に、参加者リスト（氏名、都道府県名又は所属）を提出することになっております。ただし、県としては県内外参加人数の確認のためだけにリストを使用することになっており、それ以外の目的に使用されることはありません。どうぞご了承くださいませようお願いします。もし差し支えある場合は、その旨ご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。

6. 大会への発表申し込み等

(1) 発表者の資格

- ・ [発表者]は、本学会の会員に限ります。ただし、会員以外が連名者となることは、差し支えありません。ここでいう[発表者]とは、ファースト・オーサーあるいは連名者という意味ではなく、大会当日発表される方を意味します。この会員には、発表申し込み時に入会される方も含みます。
- ・ 発表原稿受付の段階で[発表者]が年会費を納入されていない場合には発表原稿を受け付けません。また、[発表者]には、事前に、大会参加費を送金していただくことになっております。ご注意ください。発表原稿送付時に、JSETホームページ大会関係部分にて指定される「発表申し込み」の登録をしていただきますので、その登録時に年会費等の納入状況がチェックされます。事前に年会費等の納入をお願いします。なお、大会企画委員会が特に発表を依頼した場合は、この限りではありません。

(2) 発表申し込み件数の制限

- ・ 会員は、[課題研究・一般研究・International Session]に、それぞれ1件（1人合計最大3件）を発表者として申し込むことができます。
- ・ 連名者の発表件数には、制限はありません。
- ・ 類似の内容、シリーズ的な内容を複数の発表者に分割して申し込むことはできません。同一発表者が課題研究と一般研究に申し込む場合も同様です。
- ・ 課題研究は不採択になることがあります。その場合は[一般研究]として申し込むことができますが、既に一般研究にも発表を申し込んでいる場合には、それを取り下げる必要があります。

(3) 課題研究の発表申し込み方法

課題研究については次のように2段階の手続きが必要です。

1) 第1段階：発表プロポーザルの提出

- ・ 発表プロポーザルを、6月26日（木）17:00までに提出してください。
- ・ ページ数はA4版2～4ページとします。フォーマットは特に定めておりません。
- ・ プロポーザルの提出は、オンライン(Web)受付のみとします。具体的なURLならびに詳しい手続きについては、JSETホームページの大会関係部分でお伝えします。
- ・ 課題研究に申し込まれた発表は、大会企画委員会が発表の可否について審査します。発表の可否は、発表内容だけでなく、全体の発表件数も考慮して決められます。
- ・ 課題研究発表の採否は、7月10日（木）までに申し込み者に連絡します。

2) 第2段階：最終原稿の提出

課題研究に採択された場合、最終原稿を下記により提出してください。

- ・ A4サイズで2又は4ページ。原稿用紙は送付しません。JSETホームページ大会関係部分に示される内容に従って作成してください。
- ・ JSETホームページ大会関係部分から、7月31日（木）17:00までに、最終原稿のファイルを送信していただきます。
- ・ 発表時間の希望には応じられません。

(4) 一般研究及びInternational Sessionの発表申し込み方法

- ・ 7月31日（木）17:00までに、JSETホームページ大会関係部分から原稿ファイルを提出してください。事前の発表申し込みはありません。この提出によって発表申し込みとします。
- ・ 一般研究とInternational Sessionの原稿は共に、A4サイズで2ページです。1ページのものは受け付けません。
- ・ 原稿用紙は送付しません。JSETホームページ大会関係部分に示される内容に従って作成してください。
- ・ 発表日時の希望には応じられません。また、発表者及び連名者には、大会企画委員会より「座長」の依頼を受けた場合には、それをご担当いただきますので、予めご了承ください。

(5) CD-ROMの作成について

前回大会の論文集から、冊子体のものに加えて、CD-ROM（PDFファイル）を作成することになりましたので、ご了承下さい。

また、大会原稿の著作権を学会に譲渡いただくことについて今後検討されることが想定されています。この件につきましては、理事会で決定されました時点でお知らせします。

(6) 発表取り消しについて

やむを得ない事情で発表を取り消しなされる場合には、すみやかに、学会事務局（五反田）office-g@jset.gr.jpまでご連絡ください。その場合には、論文集に原稿が掲載されていても、発表者の業績としてみなすことはできません（学会から提供する発表リストから削除します）。なお、ポスター発表については、ポスターを掲示していても発表者が会場にいない場合は、発表取り消しとなりますので、ご注意ください。

7. 会場の設備について

口頭発表のすべての会場で、PCを投影できる設備（プロジェクタ）が利用可能です。口頭発表会場にはインターネットにアクセスできる環境は用意されていません。OHPあるいはOHCの利用を希望なされる場合は、事前に下記実行委員会にお知らせください。機器の利用確認は、当該の発表セッション開始5分前までに発表者の責任で完了してください。また、PCから音声を流す場合は、スピーカーを発表者自身でご用意ください。

ポスター発表の会場では、幅1メートル・高さ2メートル程度のポスター掲示用パネルを用意します。また、パネル前に長机（高さ70センチメートル程度）を用意しますので、配布資料やデモンストレーション用のパソコン等を置くことが可能です。ポスター発表会場にもインターネットにアクセスできる環境は用意されていません。また、電源は使用できません。

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地 上越教育大学 石川真研究室気付

日本教育工学会第24回全国大会 実行委員会事務局 宛
電子メールでの問い合わせ先： jset-conf@juen.ac.jp

8. 企業の展示について

大会期間中の第1日目及び第2日目に、企業による製品等の展示も行います。6月21日が第1次申込締め切りでしたが、引き続き、出展ならびに大会プログラム等における広告を募集いたします。ご希望の方は、大会企画委員会企業展示ワーキンググループ (tenji2008@jset.gr.jp) へお問い合わせください。

9. 宿泊案内について

下記のWebページにて宿泊のご案内をしておりますので、早めに手続きをお願いいたします (<http://www.juen.ac.jp/gakkai/jset2008/>) 。

10. 問い合わせ先

大会全般に関しては以下にお問い合わせください。

日本教育工学会 大会企画委員会問い合わせ用電子メールアドレス： taikai2008@jset.gr.jp

大会企画委員会

委員長：木原俊行（大阪教育大学）

副委員長（五十音順，以下同様）：東原義訓（信州大学） 室田真男（東京工業大学）

幹事：金西計英（徳島大学） 森田裕介（早稲田大学）

委員：

石川 真（上越教育大学） 緒方広明（徳島大学） 久保田賢一（関西大学）

栗山 健（学習研究社） 小泉力一（尚美学園大学） 向後千春（早稲田大学）

新地辰朗（宮崎大学） 高井尚一郎（内田洋行） 高橋 純（富山大学）

田口真奈（京都大学） 中橋 雄（武蔵大学） 中原 淳（東京大学）

南部昌敏（上越教育大学） 野澤敏夫（東京書籍） 野中陽一（横浜国立大学）

林 敏浩（香川大学） 平嶋 宗（広島大学）

担当副会長：

野嶋栄一郎（早稲田大学）

アドバイザー：

赤堀侃司（東京工業大学） 清水康敬（メディア教育開発センター）

2008年度 夏の合宿研究会のご案内（最終報） テーマ「教育における“技術”を考える」

教育や学習についてのパラダイム転換により、「教え込み型」ではない教育が重視される一方で、学力向上に向けたドリル学習や系統的学習が、今なお、あるいはこれまで以上に注目されています。「学び」とは何か？「学び」を支える教育技術とは何か？教育技術をどのように伝承するのか？今夏の合宿研究会では、伝統芸能における「わざ」の伝承過程の研究から学習者の認知プロセスに光をあて、教育実践への応用研究をしておられる生田先生を講師にお招きし、教育における“技術”について考えたいと思います。多くの実践者、研究者の方々のご参加をお待ちしています。

■日時 2008年8月9日（土）13:30 ～ 10日（日）12:00

■場所 秋田大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（手形キャンパス）

（JR秋田駅より約1.9km。駅西口より秋田中央交通路線バスが利用できます）

<http://www.akita-u.ac.jp/honbu/09access/0901.html>

■対象 テーマに関心を持つ研究者及び学校教育に携わる実践者の方 定員80名

■費用と宿泊

参加費：2,000円（資料代及び会場費として）

情報交換会費：6,000円（予定）

宿泊：各自で手配をお願いします。情報交換会の会場はJR秋田駅前を予定していますので、駅周辺のホテルをお勧めします。時節柄、混雑することが予想されますので、早めの手配をお願いします。

■参加申し込み

Webから受け付けています。URLは学会HPをご参照ください。締切は7月25日です。

なお、会場の関係で定員を80名とさせていただきます。定員になり次第締め切らせていただきます。

■スケジュール

8月9日（土）

13:00～13:30 受付

13:30～13:40 開会あいさつ

13:40～15:00 講演 <再考>教育における「技能」概念
－「傾向性」としての「わざ」概念に注目して－
生田久美子（東北大学）

15:10～17:30 対談 “教育の技術”を教育工学でどう考えてきたのか
水越敏行（大阪大学名誉教授 関西大学特別顧問）
西之園晴夫（学習開発研究所代表 佛教大学名誉教授）

17:30～19:00 移動&チェックイン

19:00～ 情報交換会

8月10日（日）

9:00～11:00 パネルディスカッション 学校内での教育技術の伝承を考える
司会 南部昌敏（上越教育大学）
パネリスト 梅澤実（川口短期大学）
益子典文（岐阜大学）
濱田純（秋田県教育庁参事 生涯学習課長）

11:10～11:50 小講演 教育工学研究の固有性とは何か？
鈴木克明（熊本大学）

11:50～12:00 閉会あいさつ

■お問い合わせ先：夏の合宿担当 姫野完治（秋田大学） himekan@ipc.akita-u.ac.jp

研究会の開催

研究会
2008

テーマ

言語力を育む授業づくり／一般

- 日 時：2008年 7月 5日（土）
- 会 場：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属教育実践支援センター
（金沢市角間町）
- 担 当：加藤 隆弘（金沢大学） kato@ed.kanazawa-u.ac.jp
TEL: 076-264-5588

プログラム

発表時間：発表1件につき25分（発表20分程度，質疑5分程度）

会場：A会場（2階 教育実践研究室） B会場（1階 視聴覚研究室）

10:00-10:10 開会挨拶・諸連絡

10:10-11:50 午前の部

- A1) 計算やグラフを題材とした理科の学習におけるe-黒板の活用事例
金子俊明（筑波大学附属聴覚特別支援学校）
- A2) 小学生向け情報活用能力のチェックリストの開発
高橋純（富山大学），木原俊行（大阪教育大学），中山実（東京工業大学），
武田一則（日本放送協会），桑山裕明（NHKエデュケーショナル），
宇治橋祐之（日本放送協会），佐藤知条（日本放送教育協会）
- A3) 状況論的アプローチからみたシンキング・ツールの活用実践
岸磨貴子・今野貴之（関西大学大学院），坂田篤志（NPO法人学習創造フォーラム），
三宅貴久子（岡山市立津島小学校），黒上晴夫・久保田賢一（関西大学）
- A4) テレビ番組とICTの連動による探求型学習の検討
中山実（東京工業大学），木原俊行（大阪教育大学），高橋純（富山大学），
武田一則・宇治橋祐之（日本放送協会），佐藤知条（日本放送教育協会），
桑山裕明（NHKエデュケーショナル）
- B1) 教職大学院における学習環境設計に関する研究
小柳和喜雄（奈良教育大学）
- B2) 教職大学院の学部新卒者を想定した「学校における課題発見実習」の試行の一検討
稲田佳彦・住野好久・高橋香代・橋ヶ谷佳正・小山朝子・泊直希・近藤勲（岡山大学大学院）
- B3) 初年次教育のエスノグラフィ
森朋子（島根大学）
- B4) 教養教育における学生の日本語運用能力向上の研究
桐山聰・田畑博敏・後藤和雄（鳥取大学）

11:50-13:00 昼休み

13:00-14:40 午後の部第一部

- A5) 初等中等教育のICT活用における学校・企業・研究者間のコラボレーションノウハウに関する検討
中川一史・堀田龍也（メディア教育開発センター）
- A6) 警察署が情報発信する子どもの安全に関するWeb ページの調査
堀田博史・稲熊孝直・内橋美佳（園田学園女子大学），坂元昂（日本教育工学振興会），
目黒公郎（東京大学），原克彦（目白大学），横矢真理（子どもの危険回避研究所）
- A7) 一般教員を対象とした校務情報化に関する意識調査
豊福晋平（国際大学）
- A8) 初任者教員のICT活用指導力を高める研修要件に関する検討
山本朋弘（熊本県立教育センター），堀田龍也・清水康敬（メディア教育開発センター）

- B5) eラーニング授業における学生レビューシートの利用とその効果
向後千春・伊豆原久美子（早稲田大学）
- B6) 効果的なストレス表示による音節習得を促す英語E-learning教材の開発
西尾由里（茨城大学），宮本節子（兵庫県立大学）
- B7) Web教育実習ノートシステムの運用・評価
加藤隆弘（金沢大学），中川一史（メディア教育開発センター），
松能誠仁・井原良訓・鷺山靖（金沢大学），
川崎繁次・川谷内哲二（金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校）
- B8) 教授活動ゲームによる「世界史」用授業設計訓練環境の構築
松田稔樹（東京工業大学大学院），遠藤信一（東京工業大学附属科学技術高等学校）

14:55-16:10 午後の部第二部

- A9) 説明文の書き方におけるルールを大学生はどのように判別しているか —ルール別指導方法の示唆—
富永敦子（早稲田大学大学院），向後千春（早稲田大学）
- A10) アカデミックライティングにおける協同推敲活動環境の構築と評価
舘野泰一・大浦弘樹（東京大学），望月俊男（専修大学），
西森年寿・中原淳・山内祐平（東京大学）
- B9) プログラミング授業の導入としての「お絵かきプログラム開発演習」
荒木恵（慶應義塾大学大学院），松澤芳昭（静岡大学），杉浦学（慶應義塾大学大学院），
大岩元（慶應義塾大学）
- B10) ユーザプロフィールを活用した学術論文推薦システム
佐藤雄大（東京工業大学大学院），宮寺庸造・横山節雄（東京学芸大学），
赤堀侃司（東京工業大学大学院）
- B11) ボランティア活動支援に特化したSNSの設計とその利用
坂井一貴（富山短期大学）

- 参加費用：研究会報告集の年間予約購読代金を支払済みの本学会会員は無料で参加できます。その他の参加者は本学会会員を問わず，研究報告集代として1,000円（当日受付にてお支払ください）となります。

●交通案内：【金沢駅から】

○北陸鉄道バス

金沢駅東口3番乗り場発91・93・94・97金沢大学行（兼六園下経由）34～37分
バス停＜金沢大学＞下車

金沢大学へのアクセス（会場は角間キャンパスです）

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/university/access/index.html>

教育実践支援センターの場所は下記PDF地図内（N15）をご参照ください

http://www.kanazawa-u.ac.jp/university/access/images/kakuma2_08.pdf

今後の研究会の開催予定

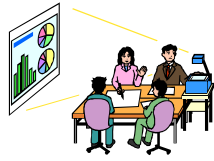
開催日	募集テーマ（予定を含む）	開催場所
2008年 9月 6日	学校図書館と情報教育／一般	玉川大学
2008年 12月 20日	教育システム・教材開発のための ICT 活用／一般	いわき明星大学
2009年 3月 7日	ICT の教育活用と授業設計／一般	椋山女学園大学
2009年 5月 16日	ICT を活用した FD／一般	徳島大学
2009年 7月 4日	教科教育学と教育工学の交差点／一般	宮崎大学

- 発表申込み締切は概ね開催日の2ヶ月前となります。

- 研究会に関するご意見・ご希望，研究会テーマ・企画などありましたらお気軽に研究会幹事までお寄せ下さい。

E-mail: study-group-core@jset.gr.jp

研究会の発表募集



テーマ 学校図書館と情報教育／一般

- 日時：2008年 9月 6日（土）
- 会場：玉川大学（玉川学園マルチメディアリソースセンター）
- 開催担当：河西 由美子（玉川大学）
- 申込締切：2008年7月6日（日） ●原稿提出：2008年8月6日（水）

●募集内容：今回は教育工学会研究会初の「学校図書館」をテーマにした研究会です。読解力の育成、探究型の学習の展開において、学校図書館は大きな役割を果たします。本研究会は、多様な学校図書館実践とそこで育成されるスキルや能力について、情報教育との関連において捉える試みとして、学校図書館・情報教育分野を越境する意欲的な研究発表を募り、議論と情報交換を行いたいと考えております。

また、今回は大学施設ではなく、併設校の玉川学園に2006年に開設された「マルチメディアリソースセンター」を会場として、今日的な学校図書館メディアセンターの学習環境を体感しながら発表をしていただきます。

●申込方法：

研究会 Web ページよりお申し込みください。<http://www.jset.gr.jp/study-group/>

●申込期限：2008年 7月 6日（日）

締切後1週間以内に、申込時に登録されたアドレスに発表の採択結果と執筆要項を電子メールにて送付いたします。

●原稿提出期限：2008年 8月 6日（水）

原稿の提出は PDF 形式で、研究会 Web ページの「発表申込フォーム」より、発表申込時に発行された「受付キー」を使用してご登録下さい。尚、期限を過ぎた場合はキャンセルしていただく場合があります。

年間予約購読のお勧め



●年間購読：研究会報告集の年間予約購読価格は郵送料込みで3,500円です（当日売りは割高になります）。年間5冊、合計500ページ前後で、各研究会平均20件程度（平成18年度実績）の研究発表が掲載されます。詳しくは、学会本部事務局までお問い合わせください。

【学会本部事務局】〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル
TEL/FAX：03-5740-9505 E-mail: office@jset.gr.jp

研究会の開催報告

●日時：2008年 5月 17日

●発表件数：35件

●会場：岩手大学

●参加者数：136名

2008年5月17日（土）、岩手大学教育学部において「質的研究と教育学／一般」というテーマで研究会を開催いたしました。発表件数は35件で、グラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）、メディア・ディスコース・アナリシス、質的評価、エスノグラフィなど本研究会に馴染みの深い研究に加え、e-learning、教育メディア研究、教育実践研究など従来からの重要な研究が多数発表されました。

各会場とも活発に意見交換が行われ、参加者の皆様方には大変感謝しております。飛び入り参加していた本学関係者も教育工学会の精力的な活動にかなり触発されておりました。ただ、せっかくの機会に大学の最新設備を使用していただきたかったのですが、例年行われている各種資格試験や選考試験、さらには教育学部大型改修などの影響で、本研究会にふさわしい部屋、設備を利用できませんでした。参加者の皆様方には大変ご不便をおかけすることになってしまい大変申し訳なく思っております。



（担当：岩手大学 塚野弘明）

日本教育工学会論文誌 論文募集

特集号「協調学習とネットワーク・コミュニティ」のご案内（第一報）

近年、進展著しい協調学習研究ですが、学習コミュニティをどう把握・デザインするかという研究はまだ緒についたばかりです。今後は、協調学習とそれが展開するコミュニティの構築を支援する研究を促進する必要があります。そこで本特集号では、コミュニティをデザインし、支援するという観点を含む学習環境研究を集約し、協調学習やその支援テクノロジーの「社会的なデザイン方針」についての総括を目指します。特集号の趣旨に適した理論的なレビュー論文や考察論文、また現在展開されている教育実践による実証的研究論文の投稿を期待しています。

1. 対象分野

- (1) 多様な学習者ネットワークを創造するための協調学習の利用
- (2) ブログやSNSといったICTを利用した学習環境のデザイン、およびその実践
- (3) 学習者共同体のデザインと、その学習効果の実証的な検討
- (4) エスノグラフィなどの手法を用いた学習者ネットワークの分析
- (5) 学習活動のネットワーク構造の数量的な分析（潜在構造分析、ネットワーク分析など）
- (6) 実社会での学習・熟達化の過程に関する調査研究、モデルの提案
- (7) 教室や道具などの学習環境のデザインが学習者共同体に与える影響の分析

2. 募集論文の種類

通常の論文誌と同様に、「論文」「資料」「寄書」を募集します。投稿規程ならびに査読は、通常の論文誌の場合と同じです。なお、「ショートレター」として既に掲載されている内容を発展させ、「論文」として投稿することも可能です。ただし、単に分量を増やして詳細に説明しただけでは発展させたことになりませんので、ご注意ください。

3. 論文投稿締め切り日（2009年11月発行予定）

投稿原稿を2月9日までに電子投稿をお願いします。ただし、2月16日までは、論文を改訂することができます。従来の特集号の場合とは異なり、締め切りの延長は行わない方針です。

投稿原稿提出締め切り（電子投稿）：2009年2月9日（月）

最終原稿提出締め切り（電子投稿）：2009年2月16日（月）

4. 論文投稿の仕方

原稿は、「原稿執筆の手引」(<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>)に従って執筆し、学会ホームページの会員専用Webサイトから電子投稿してください。郵送による投稿は受け付けないことになりました。

5. 問い合わせ先

電子メール：tokushu2009@jset.gr.jp

Tel/Fax：03-5740-9505 日本教育工学会事務局

6. 特集号編集委員会

委員長：大島 純（静岡大学） 副委員長：加藤 浩（メディア教育開発センター）

編集委員は現在検討中です。

第12期第8回理事会議事録

日 時：平成20年5月10日（土）14:40～16:00

場 所：キャンパスイノベーションセンター 8階 806号室

出 席：赤堀侃司会長，永野和男副会長，矢野米雄副会長，赤倉貴子，伊藤紘二，植野真臣，
小柳和喜雄，木原俊行，澤本和子，三宮真智子，鈴木克明，清水康敬，中山 実，東原義訓，
堀田龍也，室田真男，美馬のゆり

事務局：磯野，橋本，服部

1. 第12期第7回理事会議事録を資料のとおり承認した。

2. 会員の移動について

- (1) 新入会員： 58名(正会員:29名，学生会員:18名，准会員:11名)
- (2) 退会会員： 62名(正会員:43名，学生会員:10名，准会員:5名，維持会員:4法人)
- (3) 会員種別変更： 14名(正会員へ12名，学生会員へ1名，准会員へ1名)

3. 各種委員会報告について

(1) 編集委員会

清水編集長から資料に基づいて和文誌，英文誌の編集進捗状況，特集号およびショートレター増刊号の投稿状況，査読進捗状況，来年度の特集号テーマ，投稿規程の改訂が報告された。

(2) 研究会委員会

堀田委員長から次回および今後の研究会開催予定について報告があった。昨年度の会計収支については，発表件数の増加により印刷経費が膨大している旨，説明があった。

(3) 企画委員会

美馬委員長から，資料を基に6月開催のシンポジウムについて説明があった。また，夏の合宿を8月9～10日に秋田大学で開催する予定が報告された。

(4) 大会企画委員会

木原委員長から資料に基づいて，展示・広告募集における維持会員の取り扱いについて報告があり，承認した。上越教育大学の学生および近隣の現職教員の参加費について承認した。大会参加費の補助を受けるために，氏名と所属あるいは氏名と住所を新潟県に提出することを前提に発表申込を受け付けること確認した。

(5) 顕彰委員会

三宮委員長から，論文賞および研究奨励賞の第1段投票について依頼があった。

(6) 選挙管理委員会

澤本委員長から，資料を基に役員選挙に関する規程案について説明があった。電子メールで継続的に意見を収集することにした。

(7) 国際交流委員会

赤堀会長から国際交流を推進するために，中国CSETと韓国KSETから各1名を全国大会に招聘し，旅費を提供する案が説明された。全国大会における交流については，さらに検討することにした。

(8) 広報委員会

赤倉委員長から，資料に基づいてJSETニューズレター158および159の台割案が示され，ページ数の構成について検討した。電子メールで検討した新規広報委員を承認した。

4. その他

(1) 総会議案書について

資料の総会議案書案について確認した。

(2) 第5回(平成20年度)学術振興会賞受賞候補者の推薦について

赤堀会長から，学会として推薦するために理事に推薦の依頼があった。

(3) 交通費登録申請システムの説明について

事務局より説明があった。

(4) 後援名義使用の承諾について

IMETSフォーラム2008(財団法人才能開発教育研究財団)について承諾した。

(5)協賛名義使用の承諾について

下記の共催名義使用について承諾した.

- ・情報教育シンポジウムSSS2008(情報処理学会コンピュータと教育研究会)
- ・第24回ファジィシステムシンポジウム(日本知能情報ファジィ学会)
- ・e-Learning WORLD 2008-Expo & Conference Knowledge Solution Expo 2008(株式会社 日本工業新聞社)
- ・第10回DSPS(Digital Signal Solutions)(デジタル信号処理の教育を考える会)

(6)日本工学教育協会平成20年度工学教育連合講演会実行委員について

矢野副会長から、植野理事を選任した報告があった.

(7)本学会への広報を確認した.

下記2件については、赤堀会長から説明があった.

- ・国立大学教育研究評価委員会専門委員の選考結果について(報告)(大学評価・学位授与機構)
- ・機関別認証評価委員会専門委員の選考結果について(報告)(大学評価・学位授与機構)

(8)今後の理事会

第12期第 9回理事・評議員会(合同)2008年 6月21日(土)

第12期第10回理事会 2008年 7月12日(土)14:30~16:30

以上

学会日誌

2008年

- | | |
|------------------|------------------------------------|
| 7月 5日(土) | 研究会「言語力を育む授業づくり」(金沢大学) |
| 7月12日(土) | 理事会 |
| 9月 6日(土) | 研究会「学校図書館と情報教育」(玉川大学) |
| 9月20日(土) | 理事会 |
| 10月11日(土)~13日(月) | 第24回全国大会(上越教育大学), 理事・評議員会 |
| 11月29日(土) | 理事会 |
| 12月20日(土) | 研究会「教育システム・教材開発のためのICT活用」(いわき明星大学) |

2009年

- | | |
|----------|-----------------------------|
| 1月24日(土) | 理事会 |
| 3月 7日(土) | 研究会「ICTの教育活用と授業設計」(椋山女学園大学) |
| 3月21日(土) | 理事会 |
| 5月16日(土) | 研究会「ICTを活用したFD」(徳島大学) |
| 7月 4日(土) | 研究会「教科教育学と教育工学の交差点」(宮崎大学) |

お問い合わせ先 (Eメールアドレス)

- ◆ 論文投稿に関するお問い合わせ.....編集委員会 (editor@jset.gr.jp)
- ◆ 研究会の開催についてのお問い合わせ.....研究会事務局 (study-group-core@jset.gr.jp)
- ◆ 全国大会の開催についてのお問い合わせ.....大会企画委員会 (taikai2008@jset.gr.jp)
- ◆ ニュースレター編集に関するお問い合わせ.....広報委員会 (kouhou@jset.gr.jp)
- ◆ その他のお問い合わせ.....学会事務局 (office@jset.gr.jp)

広報委員会

編集長:清水康敬, 広報委員長:赤倉貴子, 広報副委員長:宮田 仁,

委員:矢野米雄, 伊藤剛和, 香山瑞恵, 神月紀輔, 皆川 武, 三輪吉和 E-mail:kouhou@jset.gr.jp

日本教育工学会ニュースレター No.159

2008年06月25日

発行人 赤堀 侃司

発行所 日本教育工学会事務局

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

TEL / FAX: 03-5740-9505 E-mail: office@jset.gr.jp

http://www.jset.gr.jp/

郵便振替 00180-2-539055